

令和3年5月14日

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人 国際共立学園
学校関係者評価委員会
委員長 小林美貴

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和3年5月14日 18:00~19:30 (1時間半)
場所	新館8階 ホール
出席者	【委員】 小林 美貴 (教育機関)、阿部 浩 (教育機関) (オンライン参加)、阿久津 幸司 (教育機関)、門脇 一浩 (教育機関)、富岡 啓夫 (業界)、立花 正雄 (業界・卒業生)、間仁田 厚 (業界・保護者)、堀口 真理 (業界) (オンライン参加) 【教職員】 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、古荘 浩司、原田 昭男、池田 昌央、阿見 芳明、境田 三友紀、齊藤 彩子、今野 浩志、高橋 淳実、嶺 雄太、鈴木 徹
配布資料	自己評価報告書 (事前配布)

学校作成の自己評価報告書に基づき各委員が事前評価を行う。

学校側の自己評価と委員による評価の点数に違いがある箇所について学校側が補足説明を行い、その後質疑応答とした。

基準1 教育理念・ 目的・人材像	【説明者】 工藤 佑輝 【評価】 学校関係者評価委員会による評価 (平均) は 4.0
基準2 学校運営	【説明者】 工藤 佑輝 ・事業計画は当然作成しており、理事会・評議員会の中で議論・議決をしている。ただ、HP等での公表は行っていないので、外部の方には伝わりづらい部分はある。 ・意思決定システムの整備については、LINEWORKS を使った各種届書のオンライン化を実施済みである。 このことにより、業務効率とペーパーレス化が向上し、業務自体もスピード感が増した。 ・人事評価制度の概要は以下のとおりである。 (1) 学園の方針に基づき、前・後期ごとに各部署の方針を決める (2) 部署方針に基づき全スタッフの個人目標を作成する。 (3) 達成度合いをについて、前・後期末に上長との面談を実施 【質問・意見】 阿部委員 自分が評価を3としたところも、実際のところは4だと思っている。

	<p>毎年見直しを行い、その時々の高い目標設定していくべき内容だと思っているのであえて3を付けた。昨年度の対応も自分は評価している。</p> <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.9</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>【説明者】工藤 佑輝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年中はコロナ禍の影響で実務実習が出来なかった。それに代わるものとして外部講師を呼び現状の業界を聞く機会を設けた。 ・授業評価については数年前から実施をしている。 今年からGoogleフォームを活用し、授業科目ごとにアンケートを実施している。結果については各講師にフィードバックをして改善を図っている。 ・「作品及び技術等の発表における成果を把握しているか」という点について、昨年度は外部団体のほとんどの技術コンクールが中止になり、参加が出来なかった。 その中でも、同様の環境にある他校と連携し、オンラインによるコンクールを実施出来た。 ・「資格・免許取得の指導体制はあるか」という点について、当然のことではあるが、方針・計画・責任者を定めて遂行している。とはいえ、昨年度の国家試験は100%合格ではなく、特に学科試験で不合格者が出てしまったので、評価を3にした。 次年度は学科の合格率を上げるために対策チームを作り対応する。 <p>【質問・意見】 阿部委員</p> <p>先ほども申し上げたが、私が3を付けたところは現時点では4だと思っている。毎年見直しをしていき、その時々の高い目標設定していくべき内容だと思っているのであえて3を付けた。十分な教育がされていると思っている。</p> <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.9</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>【説明者】工藤 佑輝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資格・免許取得率の向上が図られているか」について、常に改善を続け、100%合格を目指している。 ・「卒業生の社会的評価を把握しているか」については、本校校友会同窓会組織があり、情報収集をしているが、正直追いきれない部分がある。 同窓会組織でもフェイスブックのアカウントやHPも作り、卒業生を誘導するように仕向けているが、連絡先が変更してしまうとわからなくなってしまう。最近は卒業前にLINEの情報を貰い対応し、学校との繋がりを切らないよう模索中である。 <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.6</p>

<p>基準 5 学生支援</p>	<p>【説明者】鈴木 徹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「退学率の低減が図れているか」について、学生面談を行う場合、学生の性格に合わせ面談する教員を変えるなど、学校・学科全体で対応している。 <p>昨年の顕著な特徴としては、コロナ禍による経済的困窮を原因とした退学者が発生したという点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自に経済的支援制度及び給付制度を整備している。 <p>経済的困難者への授業料半額免除制度については4名、入学金免除制度は12名、学業優秀者給付制度については15名が、それぞれ受給者となった。</p> <p>また、公的支援制度として、高等課程においては「就学」支援金制度等があり、専門課程においては「修学」支援制度が令和2年から始まっているが、当校は令和3年度から確認校となっている。</p> <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.7</p>
<p>基準 6 教育環境</p>	<p>【説明者】嶺 雄太</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等が整備されているか」について、現状の課題・注意点として昼食時の教室の使用状況がある。やはり多少の密が発生している。その点が今後の課題である。 ・実務実習や学外実習、あるいは海外研修について昨年度は全て中止となった。実施していないことに評価4を付けることはできないと考える。 ・防災についても、例年、各校舎の防火管理者とともに避難訓練を年2回実施していたが、今年はコロナ禍のため中止となった。 ・学内における安全管理体制の構築は、とりわけコロナ禍においては終わりのない戦いである。昨年度の総括としては、完璧ということはないので評価を3にした。 <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.7</p>
<p>基準 7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>【説明者】高橋 淳実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はコロナ禍で4・5月のオープンキャンパス等が実施出来ず、その代わりとしてオンライン説明会等を実施した。 <p>来校型イベントは、6月以降にようやく、人数を最小限に留めて実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレアカデミーについても本校との繋がりが深いサロン様の協力により、最小人数での実施が出来た。今年度は夏に向けて実施ができるよう取り組んでいる。 ・昨年度からAO入試を導入した。このことに伴い、それぞれの入試制度の目的や評価項目などについて明確化した。 <p>【評価】</p> <p>学校関係者評価委員会による評価（平均）は3.8</p>
<p>基準 8 財務</p>	<p>【説明者】五十嵐 久乃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校法人の中長期的な財政基盤について、近年の入学者数の減少を懸念されているのではないと思うが、資産状況は余裕がある。財務基盤に関してはご安心頂きたい。

	<p>とはいえ、現状の入学者減のジリ貧状態を脱却できるよう、今年度は全学協力体制で募集活動に取り組む。昨年度に関しては微増という状況である。</p> <p>【評価】 学校関係者評価委員会による評価（平均）は 4.0</p>
基準 9 法令等の遵守	<p>【評価】 特段の質疑応答もなく、学校関係者評価委員会による評価（平均）は 4.0</p>
基準 10 社会貢献・地域貢献	<p>【説明者】工藤 佑輝 国際交流の現状として、例年各学科は海外研修を行っている。 理容・美容はイギリス、ビューティアーティスト科はアメリカ、ビジネス美容科はフランスと業界に合わせた研修旅行を予定していたが、昨年度はコロナ禍のため中止となった。また、今年度の実施も見送ることを学生・生徒及び保護者に告知済みである。</p> <p>【質問・意見】間仁田 厚 学校に問題があるわけではないので致し方ないのではないかと。</p> <p>【説明者】工藤 佑輝 2年連続で中止となり、それに代わる形で海外との繋がりを模索しているが、現段階で具体案はない。出来ることから国際交流をしていければと考えている。</p> <p>【質問・意見】富岡 啓夫 基準 10に限らず、コロナ禍で実施中止となった項目について学校側は評価 3 を付けているところも多くあるが、これは致し方ないのではないかと。むしろよくやっていると思うが。</p> <p>【質問・意見】間仁田 厚 自分もそう思う。自己評価が厳し過ぎではないかと。</p> <p>【評価】 学校関係者評価委員会による評価（平均）は 3.8</p>
各委員による 自由発言	<p>小林 美貴 専門学校一般の話として、一昨年は募集活動が思わしくなかった学校も今年に関しては持ち直している。 コロナ禍で専門学校に対する高校生のニーズが高まっているという印象を受けると同時に、気になる点もある。それは高校生に安全志向が高まり、チャレンジ精神が減っているという点だ。目標達成に向けストレッチすることせず、早期に・無理をせず進路を決めてしまう。個人的に非常に気がかりな点である。</p> <p>工藤 佑輝 募集に関しては、各専門学校とも比較的好調だということを目にする。 今年度入学生に関していえば、高校 2 年時にオープンキャンパス等での接触から 1 年かけてのアプローチが出来た。 現高校 3 年生は高 2 時の接触が出来ていない。そこで各種の対策を取っている。来校型のイベントの参加数も増加している。夕方の参加しやすいイベントも行っている。 昨年度の卒業生の就職状況については、業界自体厳しい時期もあったが、求人数が顕著に減</p>

	<p>るといふこともなく、店舗・会社により多少のバラつきがあるという程度にとどまっている。</p> <p>富岡 啓夫 業界としては、やみくもに募集するのではなく、業界全体における就職希望者に見合う規模の募集をかける傾向にあるようだ。</p> <p>阿久津 幸司 国家試験合格100%ほどの分野の学校であれ、なかなか達成できるものではないが、努力を続けることが必要だ。その為は何らの力になればと思う。</p> <p>門脇 一浩 私が在籍していた高校も入学者数が減りつつある。その割合は専門学校も当然似通っていく。来年は美容系専門学校への進学者数も少し減るのではないかと予想する。 現高3年生は進路指導らしきものを何も経験できなかった世代なので、自分としては適切な進路選択ができるか非常に不安がある。 今後の状況次第だが、オンラインであれ、対面式のオープンキャンパス等であれ、高校生に対して積極的に情報提供してもらいたい。</p> <p>立花 正雄 自分の年代になると、ほぼ同い年の親御さんから、ご自分の子息息女の専門学校進学について相談を受けることもある。 そこで思うのは、やはり学費についての適切な告知活動の大事さだ。本校は諸経費も含めた学費をきちんと表示しているが、そうでない学校もある。 例えば修学支援制度について、動画サイト等でもっとアピールしても良いのではないかと。こういう時期だから、子供である高校生が自分の親の家計について心配している。</p> <p>高橋 淳実 学費がネックになっている可能性も確かにある。修学支援制度についても、我々が当然知っているものと思っていることについても、改めてイチから説明することが大事だと思う。 動画に関しては、その他の項目も含めたまとめをHPにアップするべく準備中である。</p> <p>堀口 麻里 コロナ禍の中で今までと変わりなくしっかりと体制を整えて授業をしており素晴らしいと思った。エステテックで実技試験を拝見したが、そこでもしっかり行われていた。</p> <p>阿部 浩 会場に行けず申し訳ないが、県から感染防止対応の指示がでており、今日で5月に入って2週間たつが、既に300頁程の資料が送られてきている。 とにかくクラスターが発生しないよう、自分としても注意を払っている。次回は学生が授業を受けている風景を見られたらと思う。</p>
まとめ	<p>小林 美貴 先ほども申し上げたが、学生・生徒の考え・行動様式に一抹の不安を感じている。 コロナ禍のせいで高校の行事が潰れても、あっさりそれを受け入れてしまう。</p>

多感な年代のはずなのに、やけに聞き分けがいい。コロナが終息し、自由な活動ができるようになったとして、この聞き分けの良さは一時的なことなのか、それともそうでないのか、そこに不安に覚えてしまう。
